

# くぬぎ の森

図書館だより 第三十七号

二〇二六年一月発行



写真：熊本高専熊本キャンパス図書館の様子

## 目次

- 2～4p・・・読書感想文紹介
- 5p・・・ブックハンティングおすすめの本
- 6～7p・・・アニほん日和
- 8～9p・・・本屋大賞コーナー
- 10p・・・私の1行/活動報告
- 11p・・・図書館統計データ
- 12p・・・編集後記

本の  
旅

## 図書館長より

今年度から図書館長を務めていますリベラルアーツ系の光永です。長く本校に勤務していますが、初めて図書館の担当となり、大変嬉しく思います。

学生時代にはよく大学の中央図書館や学科の図書室に通っていました。また前世紀末に在外研究員としてイギリスに滞在中にも、大学図書館を頻繁に利用していました。一般的に言って、図書館の持つ役割は時代とともに変化しています。従来の書物はもちろん、電子書籍もかなり利用されているようです。学生の皆さんには、自分の目的や好きなスタイルで本校の図書館を大いに活用して欲しいと期待しています。

さて、皆さんの中にも本好きな人は多いかと思えます。しかし、世の中にはある種、病的なまでに本を、なかでも古書を愛する人がいて、信じられないほどの熱意で古書収集を行う人、別名ビブリオマニア（愛書狂）と呼ばれる人がいるようです。興味のある方は、鹿島 茂氏の著書を紐解いてみては如何でしょうか。驚きの世界を目にすること請け合いです。



基幹教育部門 人文社会科学分野 光永 武志

### ■ 令和7年度校内読書感想文コンクール表彰式



# 校内読書感想文コンクール入賞作品対象本

## 【最優秀賞】

豊かな時間について  
人間情報システム工学科4年  
中田 結心

### ■対象本

『モモ』

(ミヒヤエル・エンデ 著)



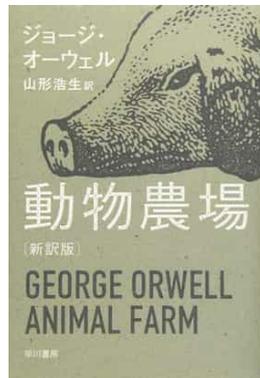
## 【優秀賞】

結局、豚は二足歩行を始めた  
1年1組 本司 蘇芳

### ■対象本

『動物農園』

(ジョージ・オーウェル 著)



## 【優秀賞】

『夜明けのすべて』  
を読んで  
1年3組 岩下 琉臣

### ■対象本

『夜明けのすべて』

(瀬尾まいこ 著)



## 【佳作】

『華氏451度』を読んで  
1年1組 浦崎 蒼生

### ■対象本

『華氏451度』

(レイ・ブラッドベリ 著)



## 【佳作】

君の臍臓をたべたいを読んで  
1年2組 中村 莉愛来

### ■対象本

『君の臍臓をたべたい』

(住野よる 著)



## 【佳作】

か「く」「し」「ご」と「  
1年2組 西 海羽

### ■対象本

『か「く」「し」「ご」と「』

(住野よる 著)



## 【佳作】

「現代の魔法使い」落合陽一が  
思い描く人とコンピュータの共生社会  
1年3組 佐藤 翼

### ■対象本

『これから世界を作る仲間たちへ』

(落合陽一 著)



令和7年度

校内読書感想文コンクール【最優秀賞】

豊かな時間について

人間情報システム工学科 4年 中田 結心

刻一刻と止まることなく刻まれ続ける時間。その価値は到底計り知れないものである。赤子からお年寄りまで全ての人間が平等に持っている24時間。自分の時間を自由に使えるのは当たり前？でももし、自分の時間が知らない間に盗まれているとしたら？これは時間泥棒から盗まれた時間を人間に取り返してくれた1人の女の子のお話。

この物語には「灰色の男たち」と呼ばれる不気味な存在が登場する。「時間貯蓄銀行」からやって来た彼らの目的は人間を騙し時間を奪うこと。床屋のフージーもまた被害者の一人だった。フージーはお金に特別困っているわけではないが、ただ何もかもがつまらなかった。時間さえあれば、もっと違う人生を歩めたはずだと思っていた矢先、灰色の男たちがやって来て「あなたは時間を無駄にしている。時間を貯蓄せよ」と迫る。その気になってしまったフージーは仕事では無駄口をやめ、使用人の仕事を1秒単位で管理し、好きな人と会う頻度を減らし、ペットを売り、母親を養老院に入れた。そしてフージーはどんどん怒りっぽく、落ち着きのない人になっていく。正直私は、背筋が凍った。フージーの話に身に覚えがあり過ぎたのだ。時間を節約するために無駄を省き効率的に行動したはずが微塵も時間は残らない。するともっと時間を節約するようになる。つまらない日常を打破するため、豊かな時間を過ごすため。しかしながら時間に追われた結果、豊かな時間とは裏腹に生活はどんどん味気のないものになり痩せ細っていく。今まさに自分も含めこの社会が陥っている状況である。課題をしながら食事をし、移動中の車内で動画を見る。そんな私に食事を楽しみ、外の景色を堪能する余裕はない。大好きな読書も最近の後回しにされがちだ。私の中でそういうものが知らず知らずのうちに無駄だと判断されてしまったのだろうか。その無駄だと判断したものを省いたことで私は豊かな時間を得たのだろうか。否、得たのではなく失っている。ゆっくり食事をする時間、外の景色を楽しむ時間、大好きな読書をする時間。それらの時間こそが豊かな時間で大切にすべき時間なのにどうして忘れてしまっていたのだろうか。

文章の冒頭に示した言葉は、かの有名なベンジャミン・フランクリンが残したもので、まさに現代社会そのものである。より早くより効率的により良いものを。なるべく時間をかけずになるべく多くの見返りを求める。挙げ句の果てには「タイパ」という言葉まで生まれてしまい、辞書に載るかもしれない言葉として大賞を取ってしまう始末。時間に追われている、そんな漠然とした恐怖を多くの人を感じている現代は、きっと能率主義の呪いにかかってしまったのだろう。支払いは現金を使わずキャッシュレスで、動画の視聴は2倍速。曲のイントロはカットし、文章は人工知能に書かせる。全ては24時間という限られた時間の中でより多くのものをより効率的に得るため、豊かな時間を過ごすため。でも、果たして本当にそれでいいのだろうか。「もっと効率的に」と、より多くの時間を生み出すために心の余裕をなくし、「もっといい暮らしをしたい」と、遠くの蜃気楼のような理想に気を取られて「今」ここにある大切なものを見失っているのではないだろうか。

時間とお金が直結し、能率主義的な考えが蔓延している現代。SNSを見ると「効率的」や「生産性」という言葉が飛び交い、気付けば社会は無駄を許す余裕がなくなってしまった。しかし社会から無駄だと排除されてしまった時間こそが豊かな時間なのだ。とどのつまり豊かな時間とは「今、この瞬間」を大切にしている時間のことだと私は思う。本を読む、ゆっくり味わって食事をする、時には休んだっていい。そこに生産性は必要ないし、将来の役に立たなくていい。自分の時間は自分のもの。時間を切り詰めて消費するのではなく、瞬間瞬間を心から楽しんで愛していくことこそが本当に生きていくということで、それこそが豊かな時間だと思うから。時間の余裕は心の余裕であり、行き詰まっている時こそ豊かな時間を見つめなおしてみるのも良いかも知れない。未来に臆病になり過ぎず、能率的な考えに囚われ過ぎない、私もそういう生き方をしたいと心から思う。

これから先時間がないと思ってしまう場面が多く遭遇するだろう。そういう時は決まって心の余裕もなくなってしまっている。そんな時は一度立ち止まってみよう。生産性や未来のことは考えずに今を見てみよう。きっと今が疎かになっているはず。一息つく休憩を設けて、今を楽しんでみよう。その先に自分の豊かな時間、自分の豊かな人生が、きっと待っている。

# ブックハンティングおすすめの本

## 『ぼくは化け物 君は怪物』

著 白井智之

ロマンチックな物語を想像させる題名ですが、本作は一話完結型で、5篇から成るミステリー短編集です。

伏線が非常に多く、読み返しながら読み進めていきたいのと、連続して読むと情報量に圧倒されるため、少しずつ読み進めるのが特におすすめ。全編に共通するのは、奇妙な世界観、倫理観の欠如した登場人物、そして美しく重層的な結末。どの篇も非常に読み応えがあります。中でも、北九州監禁殺人事件の犯人をモデルにしたキャラクターと、人類滅亡を企てる宇宙人の交渉劇を描く篇は強烈な印象を残します。作者の代表作には『名探偵のいけにえ』『エレファントヘッド』などがあり、特に後者は学校の図書館でも読めるので、本作を気に入った方はそちらもぜひ。

白井智之

ぼくは化け物  
きみは怪物



## 『新卒1年目の教科書』

著 内山早苗

この本は、社会人としての第一歩を踏み出す新入社員に向けて、仕事の基本や心構えをわかりやすく解説している一冊です。著者の内山早苗さんは、多くの企業で新人教育に携わってきた経験をもとに、報連相の重要性や、失敗への向き合い方、職場での人間関係の築き方などを丁寧に語っています。堅苦しくなく、すぐに実践できる内容が多いため、内定者や入社直後の人にもおすすめです。社会人としての基盤を築くうえで心強いガイドになる一冊です。

## 『このプリン、いま食べるか？ガマンするか？』

著 柿内尚文

皆さんは「時間」についての悩みはありますか？

例えば、あなたがダイエット中の時に冷蔵庫におやつプリンが入っているなかで「今すぐ食べる」と「後で食べる」の二つがパッと選択肢が浮かび上がったときあなたならどうしますか？「ダイエットなんて気にしねえ！！」と思いプリンを食べる選択をする人もいれば、「いや、今はダイエット中だから食べないでおこう。」と思いプリンを食べない選択をする人もいます。プリンをどうするのかはほかのどれかが決めることではありません。そのため、人それぞれによってプリンをどうするかは違ってきます。要するに時間の使い方に正解がないのです。高専生になって高専生活を送る中で「実験のレポートや課題が終わらない、でも遊びたい！」と思うのは高専生誰もが一度は思ったはず。そんな時間の使い方に悩む人におすすめの本です。この本は大きく分けて「満足の行く時間が送れない」「忙しくて時間が足りない」「時間をどう選択したらいいかわからない」の3カテゴリから時間の悩みの解決法を教えてください。そんな本です。

時間の使い方について悩んでしまった時、一度読んでみてはいかがでしょうか。

## このプリン、 いま食べるか？ ガマンするか？



柿内尚文

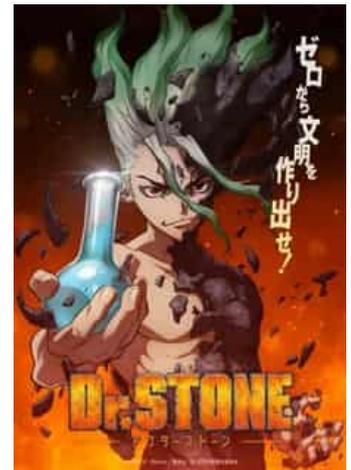
## アニほん日和

アニ本日和は、アニメと本をセットで紹介するコーナーです。  
「このアニメが好きなら、この本も楽しめるかも？」をテーマに、物語や世界観がつながる本を並べています。  
アニメをきっかけに、本にも手を伸ばしてもらえたら嬉しいです。



もし、現代の科学がすべてなくなったら、あなたはゼロから文明をつくれますか？

アニメ『Dr.STONE』は、石化した世界で科学の力を使って文明を取り戻す物語です。  
作中に登場する科学の知識は、実際の科学をベースにしています。



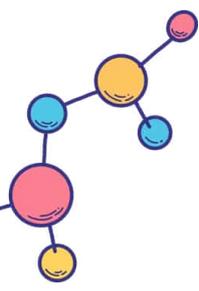
『アリエナクナイ科学ノ教科書』はDr.STONEの科学監修を担当した、くられ先生による一冊です。

この本を一言で表すと――

“ありえない“を”できるかも“に変える科学の本。

様々なアニメに出てくる、「こんなのありえない！」と思うようなことも科学の力で実現できるかもしれない理由を丁寧に分かりやすく説明し、不可能を可能にする科学のワクワクが詰め込まれています。

「教科書」といっても難しくなく、漫画やイラストが豊富で楽しく読めるのも魅力です。



科学って難しいと思う人こそ、  
この本でワクワクする科学を  
体験してみてください！

書籍名：アリエナクナイ科学ノ教科書  
著者：くられ  
出版社：ソシム株式会社  
第49回星雲賞を受賞



まだ誰も“地球が動く”なんて信じていなかった時代に、それを考えた人たちがいました。



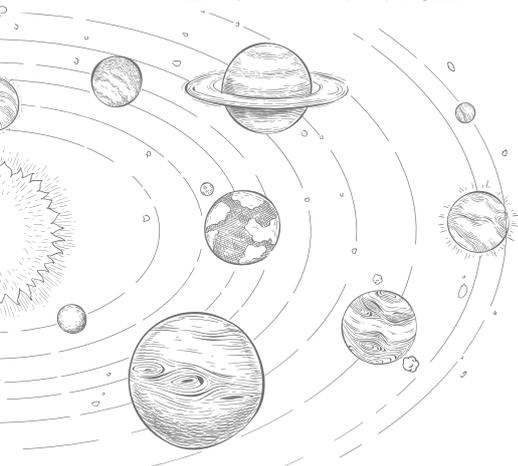
アニメ『チ。』は、時代に逆らうことさえ命取りになりかねない不条理の中で、「真理を知りたい」というただ一つの願いに向かって歩み続けた人々の姿を描いた物語です。

シリアスな場面もありますが、根底には“知ることって楽しい！”というワクワクが流れていて、見ているとこちらまで胸が熱くなってきます。その熱をもっと深く味わってみたい方々にぜひおすすめしたいのが、コペルニクス の名著『天体の回転について』です。

この本は「地球が動いている」という大胆な発想を、当時の世界に静かに、しかし力強く示した一冊です。天体の動きを“どう説明したら一番シンプルで美しいか”と考え抜いたコペルニクスの思索がぎゅっと詰まっています。ページをめくるたびに「なるほど！」と小さなひらめきが訪れます。専門的に見えますが、意外と“考える楽しさ”が伝わってくる本で、難しいところも「こうやって世界を見ようとしたんだな」と想像しながら読むとワクワクしてしまうはずですよ。

アニメ『チ。』に登場する人々が命をかけて守ろうとした“真理”の源がここにあります。彼らが見つめていたのと同じ景色を、自分の手でページを開きながら迎っていくと、歴史が急に身近に感じられ、世界が少しカラフルに見えてくるかも知れません。物語の余韻をもっと深く楽しみたい方に、ぜひ手に取っていただきたい一冊です。

## 地球の可動性を禁じるものは、 何も無い



書籍名：天体の回転について  
著者：コペルニクス【著】  
矢島祐利【訳】  
出版社：岩波書店



# 本屋大賞コーナー

【1位】

『カフネ』

阿部暁子（著）  
講談社



【6位】

『spring』

恩田陸（著）  
筑摩書房



【2位】

『アルプス席の母』

早見和真（著）  
小学館



【7位】

『恋とか愛とか』

優しさなら』  
一穂ミチ（著）  
小学館



【3位】

『小説』

野崎まど（著）  
講談社



【8位】

『生殖記』

朝井リョウ（著）  
小学館



【4位】

『禁忌の子』

山口未桜（著）  
東京創元社



【9位】

『死んだ山田と教室』

金子玲介（著）  
講談社



【5位】

『人魚が逃げた』

青山美智子（著）  
PHP研究所



【10位】

『成瀬は信じた道をいく』

宮島未奈（著）  
新潮社



## 『カフネ』

この本は「おいしい」を通して人々が支えあい、悲しみから再生していく物語です。薫子が弟の春彦の突然の死によって悲しみに沈むなか、春彦の遺言状が届きます。遺言書をきっかけに弟の元恋人せつなと薫子の交流が始まります。ボランティアを通して二人は距離を縮めていきます。他者の幸せばかり考え自分の幸せは忘れてしまう春彦の生き方は、私には想像のつかないものでした。読み進める中で気づかされたのは、愛とは必ずしも幸せなものではなく、時には相手を縛り付けて苦しめてしまうこともあるということです。それでも、おいしい食べ物は確かに愛を紡いでいきます。

ぜひ読んでみてください。



## 『禁忌の子』

みなさんは自分が生まれたとき何を感じましたか？そんなの分かりませんよね。でも親は私たちが生まれた時のことを深く覚えているでしょう。人は望んで生まれてくるものではなく望まれて生まれるものなのですから。

この「禁忌の子」という作品は出産を間近に迎えた妻を持つ、医師である武田航（わたる）の勤める病院に、ある死体が運び込まれたことからストーリーが展開されます。なんとその死体の顔は自分の顔と瓜二つ。まるで双子であるかのように…けれど双子なんて覚えがない。ではなぜここに？偶然か、それとも…。自分のルーツに迫るさなか、再び事件が発生し…！？

生命の誕生に寄り添ったこの物語。あなたは自分が生まれてきた時のことを考えたことはあるか…そう思わせる作品でした。



## 『生殖記』

この本は尚正（しょうせい）という名の社会人の生活を、語り手である生殖器の視点からのぞき見るドラマ小説です。尚正は先天的に身体的性別と精神的性別が異なる性的少数者で、同性愛者であり、ゆえに『じっくりこない』日々を送っています。パキスタン女性の生殖器も担当したこともある生殖器の語り手が、ヒトのことを生殖器なりの視点で読者に語ることとなります。

家族、集団、社会、差別、そのほかもろもろ。それらを『思う生殖器』が親しみやすい文体で、かつ鋭い切り口で取り上げる様は読んでいて痛快です。

私の考えを改めるきっかけにもなりました。おすすめします！



安心してください、ハッピーエンドですよ！

## 私の1行



「不幸だ…」

「とある魔術の禁書目録」より

この一文（フレーズ）は作中で度々主人公が零しているセリフの一つです。舞台は科学が信じられないほど発展した学園都市。様々な人間が当たり前のように自分の超能力を持っており、それぞれにレベルが割り振られていた主人公はそんな学園都市の中でも落ちこぼれの無能力者、通称「レベル0」で毎日を生き抜くのもやっと。そんな日々を過ごしているとある日、自分の家のベランダで自らを「禁書目録」と名乗る記憶喪失の少女と出会う。どうやら少女には強大な秘密があるようで…

鎌池和馬によるライトノベルシリーズ、「とある魔術の禁書目録」是非読んで下さい！

「莫迦め、ウォーランは死んだわ」

「ラヴクラフト全集6」より

これは、「ランドルフ・カーターの陳述」という物語の最後の1行です。この物語の最後で、友人のウォーランから電話がかかってくるのですが、ひどくおびえた声ですぐに戻れと伝えられ、彼の絶叫とともに電話が切られます。その後、再度つながった電話からくぐもった声で聞こえてきたのはこの言葉でした。この最後の一言だけで、主人公たちは何か恐ろしいものに手を出してしまったと読者がはっきり感じられることが好きだったので選びました。

この物語は『ラヴクラフト全集6』に含まれており、雰囲気のに似た短編物語がほかにもあり、おすすめです。



## ～活動報告～

今年度、図書委員会では図書だより「くぬぎの森」を作成しました。

図書委員が年に二回ブックハンティングを行い、自分で選定した本を実際に読み、紹介文を作成しました。「くぬぎの森」では、本屋大賞受賞作を紹介する企画に加え、初めての試みとして、心に残った一文から作品の魅力を伝える「私の一行」や、アニメ作品に関連する書籍を紹介する「アニほん日和」を掲載しました。

また、ブックハンティングで入荷した本をより手軽に確認できるよう、ウェブサイト「本の森」を期間限定で公開しました。図書館にはブックハンティングのコーナーも併設されているので、見かけた際はぜひ手に取っていただきたいです。

これらの活動が、皆さんが本を読むきっかけになれば幸いです。

情報通信エレクトロニクス工学科3年 学生図書委員 田口 昂典

## 図書館統計(令和7年1月～令和7年12月)

入館者数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
	597	290	89	826	883	768	850	278	158	557	666	427	6,434

蔵書数	和書	洋書	合計
	70,319	4,485	74,804

NDC分野別	0総記	1哲学	2歴史	3社会科学	4自然科学	5技術	6産業	7芸術	8言語	9文学	合計
貸出冊数	248	193	14	285	279	600	20	102	1,169	916	3,826

月別貸出冊数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
1年生	12	19	3	83	47	56	33	36	10	36	23	75	433
2年生	12	4	0	11	9	25	20	52	9	32	27	28	229
3年生	154	43	12	143	37	35	83	72	4	59	57	99	798
4年生	80	175	35	48	58	50	47	92	14	50	47	120	816
5年生	36	12	5	106	129	103	85	99	13	120	110	96	914
専攻科1年	6	5	0	3	16	8	3	0	0	0	2	28	71
専攻科2年	6	1	3	17	11	17	13	15	3	15	9	9	119
教職員	25	23	20	18	25	37	51	20	20	24	33	34	330
一般利用者	10	19	19	10	8	9	8	9	2	10	9	3	116
合計	341	301	97	439	340	340	343	395	75	346	317	492	3,826

### 開館時間

月曜日～金曜日	8:30～19:00(退館時間18:45)
春季・夏季・冬季休業期間中 平日	10:00～17:00(退館時間16:45)

### 休館日

- ・土曜日、日曜日
- ・国民の祝日
- ・年末年始等の校長が定めた日
- ・一斉休業日
- ・その他図書館長が休館と定めた日

※ただし、特別な場合はこの限りではありません。本校のWebページの開館カレンダーでご確認ください。

## 編集後記

図書館だより「くぬぎの森」を手にとってくださり、ありがとうございます。

図書委員会では、今年も恒例のブックハンティングを行い、学生の視点で読みたい本を図書館に迎えることができました。本号でも、ブックハンティングで入った本を紹介しています。興味のある本がありましたらぜひ借りて読んでみてください。

また、昨年に引き続き図書委員主体で「くぬぎの森」を作成しました。今年は内容を一新しまして、新しい特集を組んでおりますので楽しんでいただけたら幸いです。さらに、今年は新たな取り組みとして、図書館のウェブサイトを作成したり、本との出会いを楽しんでもらうための「福袋」を始めたりと、挑戦の多い一年でもありました。これら一つひとつの取り組みが、みなさんの読書のきっかけや、図書館に足を運ぶ理由のひとつになっていたら嬉しく思います。来年も、本と人をつなぐ場所として、図書館がより身近であたたかな存在であり続けられるよう、活動を続けていきたいと思っております。

最後に、1年間サポートしていただいた学生課の松村さん、「くぬぎの森」作成に協力していただいた光永先生、そして学生図書委員の皆さんに心より感謝いたします。多くの人の支えがあって今年も「くぬぎの森」を届けることができました。本当にありがとうございました。

人間情報システム工学科4年 図書委員会委員長 中田 結心

## フォトライブラリ

